第１２３号

居合道だより

はじめに

８月のリオでのオリンピックに続いて先月、同じ地でパラリンピックが開催された。

パラリンピックは身体に障がいのある選手達が「世界最高水準の技術とスピードを競い合う」国際競技大会である。福祉の大会ではなく，スポーツ競技の大会なのである。

オリンピックのシンボルマークは五大陸を青、黄、黒、緑、赤の五つの輪で表したものであるが、パラリンピックのそれは自由かつ調和の取れた赤、青、緑、三本の曲線で構成されている。

身体不自由には先天的なものや病気や怪我による要因があろうが、パラピンピックに出場した全ての人たちの競技能力、そしてそれに立ち向かう真摯な姿勢には本当に感動を覚えずにはいられなかった。否、感動という言葉を使うことさえ憚られるような、もっと厳

粛な、人としての生きる力、人間の尊厳さえをも見る者に感じさせてくれる内容であった。

ちなみにオリンピックの五輪はスポーツの五大鉄則、水分、体力、技術、情熱、栄養を表しているとも言われているそうだが、パラリンピックのシンボルマークの三本の曲線は人間の最も大切な三つの要素である『心（スピリット）、肉体(ボディ)、魂（マインド）』を赤、青、緑の三色で表しているのである。

障がいを持った人は我々健常者と比べると身体的には不自由なもの足りないものがあるわけだが，内面的、精神的には我々よりもはるかに豊かな多くのものを持っているのが感じられる。そしてそれはもしかしたら神様からの贈り物かも知れないが，彼らが生きていく中で苦しみながら自らの力で身につけてきたものなのではないだろうか。

我々は心技体を元として修業しているが、彼らは不自由な肉体とともに心と魂とを基盤としているのである。

今月号会員の声で紹介しているが，７月、香川での居合道審査会で８６歳の安河内さんが全受審者中の最高齢で七段に昇段された。そして先月の県審査会ではなんと御年９３歳の百岳さんが見事五段に合格された。

御二方とも敬老の精神で合格されたわけでは決してない。筆者は両方ともその場に居合わせてしっかりと拝見したが、実に堂々とした品位、風格そして気迫、豊かな人生経験に裏打ちされた心技体の充実した見事な演武であった。我々生涯武道を志す者にとってはまさに師であり鑑である。

さあいよいよ全日本居合道大会が近づいてきた。

選手諸君よ、五体満足の頑強な心身を授かった幸せをかみしめながら、九州男子の心意気、魂をぶつけて思いっきり暴れまくって来い！

成せば成る　成さねば成らぬ　なにごとも　　成らぬは人の成さぬなりけり。

会員の声

錬士　七段　安河内　政光

　此のたび居合道七段を受領しました。８６歳の高齢者として珍しいことではあると思います。

　運良く頂戴できたことを大変嬉しく存じて居ます。

　その故を以てか、一筆記すようにと仰せつかりました。さて何を記したものか、戸惑いながらの文章です。

　私の斯道との出会いは剣道に始まりますが、剣道を学んだというほどのものではありませんでした。

　太平洋戦争の最中、中学校の正課として週１時間の武道の時間がありました。このときに剣道に初めて出会いました。中には小学生時代に道場に通って剣道をしていた者もいて、籠手を打たれて震え上がった想い出があります。

　週１時間の剣道との僅かな出会いでした。中学２年からは学徒動員で工場勤務、学科の勉強は作業開始前の１時間半、学級担任二人の先生の好意による物理・数学・国語・文法、そして隔週の日曜日（残りの月２回の日曜日だけが休日）に出校しての他教科学習のみで、剣道に接することもなく敗戦となり、剣道が公的には出来ない時代となりました。剣道が再び公的にできるようになったのは私が社会人になってからです。ただ、大学時代に「撓い競技」という剣道のまがいものが一時ありました。

　もともと運動神経の鈍い私、もう剣道に親しむこともなく仕事一途、その後は謡曲・仕舞、のちのちは舞囃子と能楽に関する学習に力を入れました。

　そして息子に剣道を学ばせたところそれがきっかけで娘も剣道を始め、娘が５年生になった時親も出てこいということになり、運動神経は鈍いながらも興味はあり、竹刀を握ることになりました。

　昭和５１年４月４５歳の終わり頃でした。同年８月１級９月に初段に合格し少年剣友会の指導者の一員となり現在に至ります。初めの頃は稽古を積んでいる６年生が怖い存在でした。

　退職間際の昭和６３年４月、福岡武道館で居合道の稽古があっていることを耳にし、たまたま勤務が武道館近くであり、勤務終了後駆けつけて居合道を学ぶこととなりました。

　年を経て７０歳前後のころ剣道・居合道ともに五段を取得し、これで県の高段者名簿（現在は会員名簿）に名を連ねたと喜び、それ以上を望もうとは思いませんでした。多くの剣友が昇段していく中、技の拙い私には無理と受審することは念頭にありませんでした。

79歳の夏、剣道仲間の役員が若い剣友たちに紙きれを配っているのでそれは何かと聞くと受審申込書と言うので、私にもくれといったところ「受けるんですか！？」とびっくりした顔をしながら申し込みの紙をくれました。せっかく福岡で審査があるのなら後学のため受けてみようと私は言ったのです。

受審当日は無我夢中でしたが一次審査の実技終了後、合格するとも思わず帰宅準備に取り掛かっていたところ、「何をしている、二次の剣道形の審査場へすぐ行くように」とのこと、正直、びっくりするとともに愕然としました。何しろ一次審査に合格するとも思っていなかったので、剣道形の稽古はろくろくしていませんでした。しかしこれも居合道を学んだおかげでしょうか、なんとか合格させていただきました。

居合道の野田氏から「居合道も受審しよう、東京へ行こう！」と声をかけて頂き「柳の下の泥鰌もやすくはいまい」と思いながら上京しました。

例によって帰宅準備を終えて会場に戻ると野田氏から合格と伝えられ半信半疑でした。六段取得後は居合道地区講習会にも参加するようになり、稽古にも身を入れるようになりました。福岡武道館では三角先生から時に応じた指導をいただき、多くの剣友から助言をいただきました。

それから6年後の昨年、剣道はまた福岡、居合道は東京と二股かけての挑戦、しかし稽古不足で邪心のみ、両道とも見事に失敗しました。

今年は二兎を追うことをやめようと、剣道は子供を相手の稽古だけ、8月の山口での受審を断念した処です。でも一番緊張したのは今回の受審であったように思います。妙な欲心が出て平常心にかけていたようにも思います。修養が足りないと今反省しているところです。

思えば人間万事塞翁が馬、何がどこでどう転び、無関係のようでどう役立つか解らないものです。剣道も三段まではトントン拍子でしたが、四段は4回失敗しています。そして仕事の関係もあり受審も途絶えてしまいました。そのうち居合道が四段になって、剣道仲間から居合道が四段で、もともとの剣道が三段のままとは何事かと言われ、それではと、受審したところ、14年ぶりに合格、居合道を学んだお陰と思いました。居合道・剣道共に五段となったころ、少年剣友会の会長を30年にわたって受け持って来られた方が高齢のため、あとを引き継いでほしいと私を指名されました。

引き受けてはや15年目、あと2年で私が引き受けた時の前任者の年齢に達します。

退かせて欲しいと周りに言っているところです。居合道六段合格の時は技前に自信は全くなかったのですが、能舞台に立った経験は紋付袴の着装や、足運び、腰の座りには役立っていたのかもしれません。

剣道形にしても、居合道を学んだおかげで形に対する見方・取り組み方は違ってきたように思います。

平成15年制定の「木刀による剣道基本技稽古法」にしても一部の指導者や、よほど関心のある剣士以外馴染もうとされません。私は居合道を学んだおかげでこれにも関心を持つことが出来ました。そして現在剣道1級～３級までの級位審査にこれが採用されているため、少年剣士たちの指導に役立てています。

それにしてもこのような一文を記すことが出来るのも健康あってのこと。健康保持には充分気を使っています。テレビや雑誌その他の情報で、健康維持によいというものがあれば極力取り入れ実行しています。

朝、目が覚めて床の中で40分ほどかけてストレッチその他を実施、その後濡れタオルでの全身摩擦などを行っています。

独居老人12年、民生委員さんの見回り訪問を受けつつ家事万端・地域との付き合い、老人クラブと謡曲稽古（町の文化協会活動）に参加しながら、剣道・居合道稽古を楽しんでいます「喝！『楽しむ』？楽に胡座をかくでない！」

残り少ない人生、老骨にムチ打って、段位に恥ずかしくない技前・剣風となるよう努力修練すべきであると気を新にしているところです。

そして「愉しみ」「悦び」に昇華できればと考えています。

今後とも御指導をよろしくお願い申し上げます。

強化・研修委員会活動報告

強化・研修委員担当理事　吉田初喜

　今年度より新しく発足しました「強化・研修委員会」の活動内容について、皆様にご報告いたします。

ご承知と思いますが居合道委員会には、総務委員会、広報・企画委員会、強化・研修委員会の3委員会が設置され、緊密に連絡・打ち合わせをしながら活動しています。強化・研修委員会のメンバーは、吉田初喜、川路俊博、世利慎吾、津村久美の4名です。

今年の福岡県居合道部の目標は二つあります。一つ目は県居合道大会の充実、二つ目は居合道会員の拡大です。私共の委員会はこの目標に向かって次の活動を行っています。

1.　全日本居合道大会へ向けて選手強化稽古の実施

昨年度は会員皆様挙げてのご支援と選手の努力が実を結び、各段とも見事に優勝して日本一の栄冠に輝きました。今年も更なる練磨を重ねて連覇を目指すべく、範士及び八段の先生方にご指導を頂きながら選手の強化稽古を実施しています。

今年の全日本大会への出場選手は7月24日に選手選考審査を経て以下のように決定しました。

監督　吉田初喜

7段　和泉修二　　補欠　馬場清治

6段　廣房憲治　　補欠　末次輝

5段　荒木正亨　　補欠　井手烈太郎

選手及び私共は来るべき大会に向けて、傷害などの事故防止と自らの健康管理に努めながら日々稽古に励んでいます。

2.　地域稽古会の開催

　　県居合道部の講習会を補完するとともに、会員の拡大・活性化を促進するために県内を4ブロック（県北地域、福岡市周辺部、県央地区、県南地区）に区分して地域ごとに稽古会を実施することにしました。これにより講習会に、遠方のため、あるいは所用で参加できない方々にも研修・稽古の機会が広がり、活性化にも寄与すると思われます。

また稽古会内容は全剣連居合を深堀して、術技の基本を再確認することを元に、少人数のグループ別に実施しますので、年少者や中・高校生、一般の初心者にもわかり易い内容です。

今年度は県南地域（八女地区）、県北地域（水巻地区）、県央地域（嘉麻地区）の3か所にて開催します。開催前には改めてご案内しますが、当該地域の会員が多数参加されますことを期待しています。

おわりに、限られた紙面での活動報告となりましたが、強化・研修委員会活動へのご理解と、併せて会員皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

主な活動と、１０・１１月の予定

主な活動

９月３–４日	第４３回居合道中央講習会	京都市
９月１１日	福岡県居合道審査会	福岡武道館
９月２５日	福岡県居合道伝達講習会	福岡武道館

１０・１１月の予定

１０月２２日	第５１回全日本居合道大会（全剣連）	東京都
１１月１２日	剣道・居合道・杖道教士称号筆記試験（全剣連）	東京都・愛知県・神戸市・福岡県
１１月１９日	居合道６・７段審査会（全剣連）	東京都
１１月２７日	居合道部稽古会・級審査会	福岡武道館

発　　行

© 公益社団法人　福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟　居合道部
第１２３号 平成２８年１０月１日発行
発　行：福岡県剣道連盟居合道部　URL : http://riai.info/
発行人：井手友太
〒819-1132　糸島市有田36番地-1　　TEL:092-322-084